

(Japanese Academy of Learning Disabilities)



日本LD学会会報 第65号

事務局：〒320-0851 宇都宮市鶴田町687-9 ムギシヨウビル3F TEL. 028-649-0090 FAX. 649-3318
 URL. <http://www.soc.nii.ac.jp/jald/>



教科教育学と特別支援教育学の コラボレーション

兵庫教育大学

柘植 雅 義

大阪のある市の指導主事から、ユニークな取り組みをしている小学校がある、との情報を受け、校内授業研究会を傍聴した。研究授業は3年生の国語で、その後2時間ほどかけての研究協議があった。特色は、国や市等の指定でもない校内授業研究会でありながら、国語教育学の教授と著名な特別支援教育の専門家の2人が助言者であった、個別の指導計画が参考資料として協議に使われた、特別支援教育を視野に入れた学習指導案を工夫していた、の3点であった。その学級には発達障害の子が何人かいて、さらに交流及び共同学習で特別支援学級の子と一緒に学んでいた。

一方、私は2つの大学院で学ぶ機会があった。数学教育学専攻と障害児教育専攻である。数十年も前のこと、日本数学教育学会に入会し研究発表を継続したが、当時は、数学教育学の研究者や学校の教師は障害のある子どもの算数・数学指導にはほとんど関心がなく、やがて発表を止め、学会も辞めてしまった。ところが、それから少しして、国際数学教育会議が日本で開かれ、そのプログラ

ムを見て驚いた。20ほどの分科会にSpecial Needs Education 分科会とGifted and Talented 分科会があったからだ。それを機に調べてみると、諸外国の数学教育学の研究の射程は広く、障害のある子どもの指導や、特別な才能のある子どもの指導も含まれていることが分かってきた。通常学級でLD等の多様なニーズの子どもの指導が早くから進んでいたアメリカ等の国なら、当たり前と言えば当たりの状況かもしれない。

現在の日本では、特別支援教育の法的整備やシステム構築が直実に進み、今や通常学級の各教科の授業に特別支援教育の視点を如何に入れていくかの具体的な検討が必要（あるいは可能）な段階となってきた。

日本LD学会が、国語教育学や数学教育学などの各学会に緊急アピールを行うとか、日本数学教育学会と日本LD学会の双方の年次大会の一部のプログラムを重ねてLD等の子どもの算数・数学教育について研究者や実践家が集中的に議論するとか、・・・面白い時代になってきたと思う。